



淑徳大学 国際交流センター

NEWS LETTER

2024 VOL.1 創刊号

- 創刊号 TOPICS
- ① 国際交流センター長挨拶および運営担当教員紹介
 - ② 学生の海外研修レポート：フィリピン・セブ島研修、オーストラリア・ウーロンゴンカレッジ英語異文化研修

国際交流センター長挨拶および運営担当教員紹介

● ご挨拶

国際交流センター長 畑江 美佳

国際交流センターは、本学の国際交流に関する事業を推進することを目的として2017年4月に設立されました。現在は多くの大学や教育機関と提携し、海外への扉として、また海外留学生を受け入れる窓口として、様々なサポート事業を行っています。

国際化多様化の流れの中で、将来いかなる職業に就いても語学力や異文化コミュニケーション能力が求められます。学生の皆さんには、海外研修等を通じて、異文化への適応力や積極性を身に付け、グローバルな視点で物事を捉え発信することのできる社会人に成長していただきたいと思います。

現在、語学・異文化を学ぶことを目的とした「夏期カナダ研修（3週間）」及び「春期オーストラリア研修（4週間）」にて多くの学生さんを海外に送り出しております。研修を終えたくましくなって帰国した彼らに再会するのが我々の喜びです。今後は、これらの研修内容との差別化を図った「体験型短期海外研修」や「長期ESL留学」等を企画、実行していく所存です。

● 国際交流センター運営委員 担当教員紹介

東京キャンパス 今村 有里

（高等教育研究開発センター）

高等教育研究開発センター所属の今村有里です。S-BASICの英語科目（コミュニケーション英語I・II・III）と選択科目の英語IIIを担当していて、普段は東京キャンパスと千葉キャンパスにいます。

私は幼い頃から異文化に触れることが好きで、10代の頃は洋画や洋楽に夢中になり、そして、自然と外国語に興味を持つようになりました。大学生になってからは「年に一度は必ず海外へ行く」と決め、今でも毎年、仕事やプライベートで海外へ行き、異文化に触れ、自分自身の知見を広げる機会を積極的に設けています。

また最近では、これまで興味はあったものの行動してこなかったことをリストアップし、少しずつそのリストを達成できるように取り組んでいます。これは英語圏でバケツリストと言います。バケツリストについては、モーガン・フリーマンとジャック・ニコルソンの「最高の人生の見つけ方（The Bucket List）」を見ることをおすすめします。（次ページに続く）

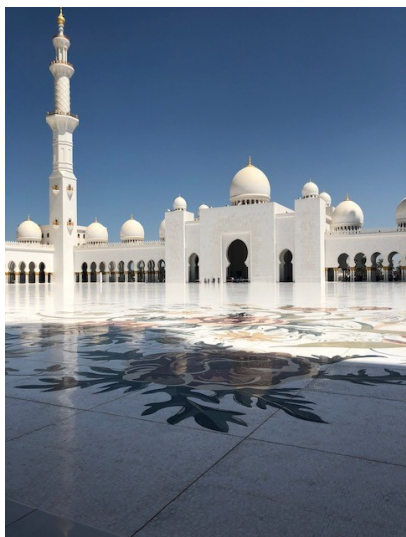
みなさんのバケッリストには何が含まれていますか？もしかしら、その中に国際交流や異文化理解、海外といった項目はありますか？大学生活は、新しいことに挑戦する絶好の機会です。国際交流に参加することで、視野を広げ、国内外で新たな友人を作り、将来のキャリアにもプラスになる経験を得ることができます。異文化との触れ合いは、自分自身を成長させる大きなチャンスです。ぜひ、国際交流に少しでも興味のある方は国際交流センターまでお越しください。

埼玉キャンパス 御手洗 明佳（教育学部）

2023年度より本運営委員となりました教育学部の御手洗（みたらい）です。教育学部では「短期海外研修（オーストラリア）」を担当しています。

研究対象が「国際バカロレア(International Baccalaureate、通称：IB)」という国際理解プログラム／資格のため、インターナショナルスクールや海外現地校を調査する機会が多いです。これまで、イギリス、フランス、ドイツ、シンガポール、アラブ首長国連邦（UAE）、インドなどを訪問してきました。

掲載した写真は、中東UAEの首都アブダビにある「シェイク・ザイド・グランド・モスク」です。総工費用550億円をかけたといわれる豪華絢爛な外装・内装（白い壁面は全て大理石）は、異教徒でも一見の価値あります。



淑徳大学生のみなさんには、海外研修等に参加し、多様な人々や異文化に触れ、これまでの価値観が180度変わるような経験をしてほしいと思っています。

千葉第二キャンパス 土谷 庸 （看護栄養学部）

2019年度より本運営委員を務めさせて頂いております。私自身は、近年は学会発表や観光を含めてアジア地区訪問が多くなっています。

実は私の妻は淑徳大学と縁の深いスリランカ出身で、私もこれまで2度スリランカを訪れました。現地の人々と同じ生活スタイルで滞在し、普通の観光で味わえない生活感や交流を経験することが出来ました。掲載した下の写真は旧首都コロombo市内の寺院内にある仏像で、日本の大仏様と比べて色彩や表情が対照的であるのが興味深いですね。

学生に皆さんには、研修機会のタイミングと思い切りの良さがあれば、観光だけでは得られない素晴らしい体験が出来ることを伝えていきたいです。



学生の海外研修レポート

2024年2月～3月にかけて実施されたフィリピン・セブ島研修、オーストラリア・ウーロンゴンカレッジ英語異文化研修についてご紹介します。（学年はいずれも参加当時です）

● フィリピン・セブ島SDGs研修プログラム（栄養学科2年 加藤 杏菜）



2024年2月18日から2月22日まで、フィリピン・セブ島にてSDGs研修プログラムに参加しました（千葉キャンパス1名・千葉第二キャンパス2名）。このSDGsは、淑徳大学国際交流センター推奨プログラムの一つです。

セブ島といえば人気観光地の一つです。青く輝く海と海岸は観光客を魅了し、そんなセブ島で研修なんて、とてもうらやましい！・・・と思うでしょう。でも今回の訪問目的は、スラム街、セブ島最大のゴミ山視察、そしてストリートチルドレンとの交流でした。観光目的では決して訪れない場所への訪問を通じて、人々の生活の現実に触れて交流し、国際協力のあり方について考えるヒントを学ぶことが今回の大きな研修目的です。

ゴミ山訪問では、ゴミの中からお金になるものを拾い、売って生活費を賄っている家族や、学校の給食費が払えないため、学校にいけない子どもたちがいることを知りました。また、スラム街を回っている中で気づいたことがあります。それは、集落内のアットホームな空間です。訪問前までは、貧困層の方々は気持ちが暗く、心を開いてくれないのではと考えていました。しかし住んでいるみんなが家族のように接していて、とても和やかな雰囲気でした。楽しそうに話す人々の明るい表情が忘れられません。

その一方で、ショッピングモールに行った時に驚いたことがあります。スラム街の子ども達と年齢が近い子たちが、オシャレを楽しんでいる姿です。日本では外見だけでは貧富の差が見えにくく、日常的には格差に気付きにくいものです。あまりに大きいフィリピンの経済格差を目の当たりにして、今までのフィリピンに対する認識が違っていたことを痛感しました。

以上のように、今回の研修で様々な学びがありました。観光で訪れていたなら、絶対に目にすることのないフィリピンの人々の生活実態を自分の目で見て、肌で感じる事が出来たのですから。初めて分かることが多々あり、自分の成長につなげることができました。



● ウーロンゴンカレッジ英語・異文化 研修

(社会福祉学科3年 元木 望
表現学科2年 木下 七海)



2024年2月24日～3月24日の期間、ウーロンゴンカレッジで実施された英語・異文化研修に参加しました（千葉キャンパス8名、東京キャンパス2名、千葉第二・埼玉キャンパス各1名）。ウーロンゴンは、オーストラリア大陸南東部にある港湾都市です。シドニーの南方70キロメートルに位置し、ニューカッスルに次ぐ同州第3の規模の都市です。

オーストラリアは歴史的に移民を多く受け入れてきた国であり、アットホームな国民性であることが知られています。初の海外滞在で不安があったにもかかわらず、ホームステイ先、学校、そして観光地で温かいおもてなしを受けました。ホームステイ先では堅苦しさはなく、家族のように接してくれました。

授業はもちろん全て英語で、先生の言っていることが分からない・・・でも当然のことですよね。自分だけじゃないと前向きに頑張りました。学校に着くと主に語学について学びますが、オーストラリアの動物や文化についても学ぶ機会があり、オーストラリアのことが好きになりました。語学の授業では、スピーチやグループでゲーム形式の活動などを主に行いました。おかげで約1か月という短期間ながら、特にリスニングとスピーキング能力が向上したことがとても自信になりました。そして授業内だけではなく、現地のオーストラリアの人達とコミュニケーションが取れた時の嬉しさ。海外でも通用することを知り、より大きな自信となりました。

観光も楽しみ、ウーロンゴン市内はもちろん日帰りでのシドニー観光も実現しました。（ちなみにオーストラリアの首都は、五輪開催地のシドニーではなくキャンベラです！）印象に残ったことは動物園に行ったことです。オーストラリアにしかいない動物や、オーストラリアを代表するコアラやカンガルーを見ることができてとても充実した時間を過ごすことができました。またクラスメイトに誘われて、人生初のサーフィンで大海原を楽しんだことも貴重な経験でした。

とにかく楽しい事ばかりでしたが、ちょっと困ったこともありました。小さなことかも知れませんが、部屋に虫が多く入って来たこと・・・。たとえ小さくても、やはり苦手です（笑）。日本とは自然環境や気候の違いがあるせいでしょうか、これも海外生活のための勉強？として思い出に取っておきたいですね。



国際交流センターで募集する海外研修について（ご紹介）

国際交流センターでは、夏休みや春休みを利用して、海外の大学で英語や異文化を学ぶ、短期海外研修を全キャンパスの学生にご案内しています。語学力は原則として不要で、本学学生であれば誰でもチャレンジすることができる研修です。

国際交流センターでは、渡航前のオリエンテーションを実施し、持ち物からホームステイのコツ、現地での危機管理等、現地での研修が充実したものになるよう、丁寧にアドバイスしますので、初めての海外渡航の方も安心して参加することができます。研修に参加する学部学科学年を超えた仲間との出会いも貴重な財産となります。

また、語学研修とは異なる、一週間程度で参加できる体験型の研修（スタディツアー）も、国際交流センター推奨プログラムとしてご案内しています。一例として、福祉ボランティア体験や日本との教育施設の違いを学ぶもの、現地の子供たちとの交流など、渡航先によって異なりますが、海外旅行とは違った貴重な体験ができます。

プログラム説明会は、S-Naviで全キャンパスの学生へ配信していますので、興味のある方は、国際交流センターが実施する説明会へ参加して下さい。

また、半年や1年など長期留学を希望されている方には、国際交流センターでは随時個別相談に応じています。まずは話を聞いてみたい、相談したいという方は、お気軽に国際交流センターまでお問い合わせ下さい。

<国際交流センターでご案内する研修>

【夏休み8月-9月】

- ① カナダ英語・異文化研修（8月3週間）
滞在：ホームステイ ※オンライン説明会：3月下旬、申し込み：4月上旬
- ② 体験型研修（スタディツアー）8月または9月

【春休み2月-3月】

- ① オーストラリア英語・異文化研修（3月4週間）
滞在：ホームステイ ※オンライン説明会：10月上旬、申し込み：10月中旬
- ② 体験型研修（スタディツアー）2月または3月

※体験型研修は、外部団体が企画するスタディツアーです。本学学生の学部での学びにも関連しており、学生の皆さんにとって興味深いものをご紹介しています。（研修先例：セブ島、カンボジア、カナダ、フィンランド）なお、渡航先により研修日数、内容、滞在方法は異なります。説明会は開催時期に合わせて、S-Naviでご案内していきます。なお、現地事情により、訪問都市や内容を変更してご案内する場合があります。



【編集後記】

この度、国際交流センターニュースレター創刊号を発刊するにあたり、編集にご協力いただいた教職員および学生の皆様に御礼申し上げます。国際交流センターについては大学ホームページ

(<https://www.shukutoku.ac.jp/university/facilities/internationalcenter/>)でも情報発信しており、その活動内容をさらに親しみやすく皆様にお伝えすることを目的として本ニュースレター発行することとなりました。国際交流ならではの貴重な経験やエピソードを知っていただき、学生の皆さんがより海外研修に興味を持って参加の第一歩を踏み出す手助けになれば幸いです。

（記・土谷 庸）

淑徳大学 国際交流センター NEWS LETTER 2024 第1号

発行日：2024年7月31日

編集：淑徳大学国際交流センター

TEL：03-5918-8253（部署直通）

E-mail：kokusai@daijo.shukutoku.ac.jp